

News Release

報道関係各位

～第 13 回 オンコロジーメディアセミナーのご案内～

NPO 法人 がん医療研修機構と大鵬薬品工業株式会社は、情報公開の時代にあつてがんの医療情報をがん患者さんやその家族だけでなく広く正しく国民全体に伝達する必要性から、オンコロジーメディアセミナーを開催いたしております。平成 18 年 7 月 26 日に第一回セミナーを開催し、今回で 13 回目を迎えます。がん医療研修機構は主にがん医療に携わる医師、看護師、薬剤師などの全ての共働者によるチーム医療を推進する活動をしてしておりますが、本セミナーの目的として、がんの専門医の先生方にそれぞれのご専門の分野からメディアの皆様に向けてがんの検診、診断、外科手術、化学療法、放射線治療、緩和医療などのあらゆるがん医療についてご講演頂き、記者の皆様のがんに関する知識向上を図ることにあります。

皆様におかれましてはご多忙中誠に恐縮ではございますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。

NPO 法人 がん医療研修機構 理事長 塚越 茂

記

日 時	平成 22 年 11 月 9 日 (火)	17:20～20:30 (予定)
会 場	経団連会館 5F ルビールーム	〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2
共 催	NPO 法人 がん医療研修機構	大鵬薬品工業株式会社
後 援	日本癌学会 (予定)	日本癌治療学会 (予定)
協 力	日本医学ジャーナリスト協会	

テーマ「最新がん治療トピックス」

司会 大野 善三氏 (日本医学ジャーナリスト協会会長 元NHK)

開会にあたって(17:20～17:30)

がん医療研修機構理事長 塚越 茂先生

講演 1 (17:30～18:30)

乳がん個別化治療の進歩

岩手医科大学 外科学講座 講師 柏葉 匡寛先生

講演 2 (18:30～19:30)

骨髄腫治療の最新の話

日本赤十字社医療センター血液内科・輸血部長 鈴木 憲史 先生

情報交換会 (19:35～20:30)

*セミナー終了後、ご講演の先生方と懇談していただきます。**大変恐縮ですが、別紙ファックス返信用紙にて出欠のご返事を 11 月 1 日(月)までにお送りください。****当セミナーに関するお問い合わせ先： オンコロジーメディアセミナー事務局****(株)協和企画内 担当:藤井 治美****〒105-0004 東京都港区新橋 2-20 TEL:03-3573-2060/FAX03-3573-2064**

< 講演1 講師ご略歴・抄録 >

乳がん個別化治療の進歩

岩手医科大学 外科学講座 講師 柏葉 匡寛先生

乳がんは多くがホルモンの支配下であり、早期に手術すると予後の良いがんであると認識されてきた。しかし近年 mRNA の発現パターンの解析により最低5つ以上のサブタイプから構成されており、それぞれが独自の増殖因子、薬剤感受性を有し予後も異なることが判明してきた。このことはひと言に乳がんといっても「どんなタイプの乳がんか」という分類が可能になり、それに合った治療方針の確立が必要になってきていることを示す。このような考えは特に術後、あるいは再発後の薬物療法に大きな影響を及ぼし、個別化治療の実現を後押ししている。一定の蛋白に作用する分子標的薬や腫瘍内での薬剤濃度を上昇させる抗がん薬の開発といった薬物の改良はもとより、治療中の患者さんの希望を反映し生活の質（QOL）を維持した治療環境もまた個別化治療の一面と理解できる。バイオマーカーによる乳がんサブタイプを考慮した個別化治療の現状を供覧し、乳がん診療の進歩と今後について考察する。

柏葉 匡寛先生ご略歴

- | | |
|----------|--|
| 1991年3月 | 岩手医科大学卒業 |
| 1995年3月 | 岩手医科大学大学院卒業
病理学にて「乳癌抑制遺伝子異常の研究」 |
| 1995年6月 | 米国ハーバード医科大学、ダナファーバー
癌研究所 癌薬理学でリサーチフェロー
「癌免疫 0 と遺伝子治療」の研究 |
| 1998年4月 | 岩手医科大学第1外科 医員 |
| 2000年7月 | 岩手県高次救急センター 助手 |
| 2002年4月 | 岩手医科大学第1外科 助手 |
| 2005年4月 | 米国 MD アンダーソンがんセンター研修 |
| 2006年4月 | 岩手医科大学第1外科（現外科学講座）講師 |
| 2009年4月 | 外来化学療法室長 兼務 |
| 2009年10月 | 腫瘍センター副センター長 兼務 |

【学会など】

日本外科学会専門医、日本乳癌学会専門医 評議員 施設認定医員
乳癌学会診療ガイドライン「薬物療法」作成委員、日本癌治療学会評議員
癌治療認定医、ASCO active member、日本臨床腫瘍学会
日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本癌学会

< 講演2 講師ご略歴・抄録 >

骨髄腫治療の最新の話題

日本赤十字社医療センター 血液内科・輸血部長 鈴木 憲史先生

近年、多発性骨髄腫の治療は、新規3薬剤（1999年サリドマイド、2005年ボルテゾミブ、2007年レナリドミド）の登場により、世界的に目覚ましく進歩をとげている。国内においても新規薬剤は、再発・難治性の多発性骨髄腫の適応（レナリドミドは2010年7月市販）を取得しており、実際に多くの患者に使用されその臨床効果（生存期間延長、QOLの改善）を発揮している。海外の報告では、新規薬剤と従来薬剤との組み合わせから更なる生存期間の延長がみられている。同時に骨髄腫の効果判定にも変化があらわれ、昨今では骨髄腫患者でもCR（完全寛解）の獲得を目指すだけでなく、sCRやMolecular CR（分子学的寛解）を目指して治療するケースもある。又、新規作用機序を有する薬剤（HDAC阻害薬、Hsp-90、IL-6抗体など）の開発が進められており、将来的に骨髄腫患者に臨床応用される期待が高まっている。しかし、国内での新規薬剤は、再発・難治性の多発性骨髄腫の保険適応の取得にとどまっている。このような状況の中、現時点の国内における多発性骨髄腫治療のベストプラクティスと将来展望、および医療費問題などについて紹介する。

鈴木 憲史先生ご略歴

1976年3月 新潟大学医学部卒業
1976年4月 日本赤十字社医療センター 内科研修医
1978年4月 日本赤十字社医療センター 内科医師
1982年3月 東京医科歯科大学医学部大学院専攻科卒業
1982年4月 東京大学医学部第3内科（血液学専攻）で2年間研究
1990年5月 日本赤十字社医療センター 第2内科副部長
1995年4月 日本赤十字社医療センター 血液内科部長

【学会など】

認定内科専門医、日本血液学会指導医、代議員、内科専門医会評議員
国際血液学会会員、日本骨髄腫研究会幹事、日本免疫治療学研究会幹事
日本赤十字社看護大学非常勤講師（内科学）、東京大学医学部非常勤講師、昭和大学客員教授

第 13 回 オンコロジーメディアセミナー事務局行き
FAX 返信用紙 FAX 03-3573-2064

日 時 :平成 22 年 11 月 9 日(火) 17時 20 分～(受付開始 17時 00 分～)

場 所 :経団連会館 5F ルビールーム

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-3-2 TEL 03-6741-0222

いずれかに○印をおねがいたします。

ご出席 / ご欠席

お 名 前	
貴 社 名	
貴 部 署 名	
電 話 番 号	
FAX 番 号	
E - mail	
備 考	

経団連会館のご案内



○東京メトロ「大手町」駅下車 C2b出口直結